

# 言語交換型授業のための学習環境の設計

Authors: 谷内正裕 (yachi@sfc.wide.ad.jp)

大川恵子 (keiko@sfc.wide.ad.jp)

Date: 2005 年 1 月 30 日

## 目的

本研究では、お互いのターゲット言語をネイティブまたはネイティブに近い習熟度を持つ相手とテレビ会議によるリアルタイム遠隔セッションを行うことで、お互いに教えあう環境を実現し、目的意識を持った効果的な言語学習を行うための環境を設計する。遠隔セッションを用いた交流授業では、学生による積極的な授業への参加が求められ、いわゆる知識伝授型の授業とは異なった実施方法が必要とされる。この点を、授業を実施しながら参加した教員や学生にアンケートをとる事で検証する。具体的には学生の参加のしやすさがどうだったか、今後のセッションで考えられる技術的・事前準備・運営などの改善点、通常の教室内の発表と意識がどう変わったかなどを参加者に記述してもらい、検証を行う。また学生の視点、講師の視点によるセッション参加時の意見感想をもとに、比較・議論を交えながら、技術的な点やカリキュラムについての問題点を明らかにする。

## 活動概要

2004 年度は具体的な交流授業として、Asian Youth Fellowship (AYF) 日本語学習者と SFC スキル英語プロジェクト授業<sup>1</sup>を履修している英語学習者による、交流プログラムを継続的なカリキュラムとしての定着を目指して企画・実施した。なお交流時の授業は慶應義塾大学環境情報学部

鈴木佑治研究室<sup>2</sup>で開発された、テレビ会議を利用した言語学習プログラムである Language Exchange Program に基づいて行った。このプログラムは慶應大学 SFC 英語セクションではプロジェクト授業で運用されている。本プログラムは教室内の授業、Web サイト票での交流、テレビ会議を用いたリアルタイムセッションを効果的に連携させる事で、双方の学習者のターゲット言語使用の場を用意し、お互いの言語を教え合う環境を実現している。

## 参加者

交流セッションはこれまでに 2 回行った。ただし、7 月と 11 月に行った関係で慶應大学側は学期が変わり、参加者は異なる。

- AYP9 期生 18 名
  - 来年 4 月の日本留学に向けて日本語教育を受けている東南アジア 9 ヶ国およびバングラデシュ出身の 18 名。英語は母語ではないが、研究に必要な英語力を持つ学生。
- 7 月 SFC7 名
  - SFC スキル英語レベル A Presentation (谷内正裕担当) 1 名
  - SFC スキル英語レベル A Project (谷内正裕担当) 6 名
- 11 月 SFC14 名
  - SFC スキル英語レベル A Project (長谷部葉子担当) 14 名

<sup>1</sup> <http://english.sfc.keio.ac.jp/ES/>

<sup>2</sup> <http://www.yslab.sfc.keio.ac.jp/>

## セッションの様子

7月のセッションでは AYF 側の学生の日本語のレベルが質疑応答やディスカッションを行うのに十分な段階に達していなかったため、日本語は挨拶やフリーディスカッションで使用し、発表は英語を学習している SFC の学生による英語の発表と英語による質疑応答を行った。11月のセッションでは AYF 側の学生が日本語による発表や質問への回答を行い、SFC 側の学生は AYF 側に英語で質問する形で行った。これによって、お互いがターゲット言語をネイティブ、またはネイティブに近いレベルの相手に用い、お互いに教えあえる環境を実現した。

### 第1回セッション

7月9日(金)JST 15:30-16:45

- 15:30-15:35 挨拶
  - 双方担当教員、コーディネータによる挨拶
- 15:35-15:45 学生の自己紹介
  - AYF 側、SFC 側各学生:名前、所属、専攻、関心分野など(日本語中心)
- 15:45-16:30 SFC 学生による発表(英語による発表、日本語による議論)
  - マンガで学習出来る二人称を中心とした日本語日常会話
  - 伝統工芸(着物)の制作工程、自らの経験をもとに主に染色について
- 16:30-16:40 質疑応答など(日本語、英語)
  - SFC 学生の発表に関するもの、フリーディスカッション
- 16:40-16:45 挨拶、閉会
  - 双方代表学生による挨拶

### 第2回セッション

11月8日(月)JST 11:10-12:40

- 11:10-11:20 AYF 側挨拶

- プログラムコーディネーター挨拶
- AYF9 期生より自己紹介
- 11:20-11:30 SFC 側挨拶
  - スキル英語プロジェクト担当教員挨拶
  - スキル英語プロジェクト学生より自己紹介
- 11:30-12:20 学生による発表
  - AYF 学生(インドネシア)による発表「乳牛の低カルシウム血症について」
  - 学生(フィリピン)による発表「マングローブについて」
  - AYF 学生(バングラデシュ)による発表「バングラデシュの農場管理について」
  - AYF 学生(カンボジア)による発表「アンコールワット西参道の保存・修復について」
- 12:20-12:35 質疑応答など
  - AYF 学生の発表に関するもの、フリーディスカッション
- 12:35-12:40 挨拶、閉会
  - SFC 学生代表による挨拶

## アンケート調査および考察

7月のセッション後にアンケートを行い、双方から次のような意見が集まった。これらの反省点をもとに11月のセッションでは改善を加えて行った。

- 発表者が用意した資料を早い段階に共有するテーマが早い段階でわかると、議論が行いやすい

これらは、リアルタイムのセッション以外にも Web ページなどで情報を共有することで対応した。SFC 側の授業では交流セッションに合わせてリサーチや発表の準備などを進めていく形で進められ、その途中段階の取り組みも学生が Web 上

などで随時アップデートしていく。そのため、事前にお互いの資料や自己紹介を交換することで、よりセッション中の時間を効率よく使うことができる。

- 声が小さくて、聞き取りにくかった。音声のトラブルなどがあり、議論を行いにくかった

7月のセッションでは vic/rat の環境で行った。しかし、大人数同士の会話が行われる場合、マイクの受け渡し等で時間が取られてしまい、活発な議論を阻害する要素となってしまった。11月のセッションでは本来グループディスカッション用に設計された Polycom ViewStation を利用し、スムーズなディスカッションを実現した。

- 学生の専門分野、日本の文化など関心あるテーマで議論したい

それぞれの専門分野、またはそれぞれが持つ文化をターゲット言語でわかりやすく、相手に伝わりやすく話すことは非常に困難であるが、同時に重要なことである。しかしターゲット言語の学習が目的ではなく、研究が目的でその過程でターゲット言語を学ぶ環境があると考えれば、幅広い分野の授業間で言語学習をも考慮した交流セッションを行えることが求められる。より多くの授業で手軽に交流セッションを行うためのガイドラインの作成が必要といえるだろう。今後は双方担当教員との議論を元に、技術サポートやガイドライン作成を行い、広く言語学習授業で利用できる一つのモデルを提案することを目指す。

Copyright Notice

Copyright © WIDE Project 2005. All Rights Reserved.